



■発行年月日/2010年7月1日 ■発行/独立行政法人国立病院機構千葉医療センター ■発行責任者/院長 増田政久 ■編集者/副院長 杉浦信之
〒260-8606 千葉市中央区椿森4-1-2 Tel 043-251-5311 Fax 043-255-1675 http://www.hosp.go.jp/~chiba/



病院北側から見た千葉医療センター (北側は畑地が多く緑豊かであり、反対側は閑静な住宅街となっている)
エネルギー棟(手前)、低層棟(中央=3F)、高層棟(後方=8F)で構成されている。



新病院開院にあたり

院長 増田政久

6月1日の新病院開院から、はや1ヵ月が経ちました。

老朽化、狭隘化がすすみ、雨漏りや医療機器の増設・更新もままならなかった旧病院に比べ、1.7倍に拡張された新病院は、個室や各相談室の充実をはじめとしたやさしい療養環境の提供、新しい医療機器の導入による診断・治療の充実、研修医を含むスタッフの増員、医療安全面からの

要請、さらに臨床研究の充実などに対応できるよう工夫しました。

実際スタートして1ヵ月、いろいろな問題点が見えてきました。同時に患者さんからも多数ご意見を伺っています。病院正門から新病院玄関までの導線が長いことや駐車場の不足など旧棟の解体が進まないなどどうしても解決しない問題もありますが、できるところは時間をかけずに修正を加えていくつもりです。

新病院も徐々にその真価が発揮されてくるものと確信していますが、今後とも皆様方に、地域の頼れる中核病院として当センターを育て、鍛えて頂きたい、お願い申し上げます。

ChibaMCC (四尺)

新病院紹介/新任退任挨拶	2
臨床研修医紹介	2~3
ネパール記②③	4
連携医院紹介	5~6
診療トピックス④	6
ウズベキスタン日記⑥/地域医療連携室だより	7
医療安全管理室/お薬の話/栄養管理室だより④	8
ANECOTA⑧隠れた史実	9
認定看護師/メディカルQ&A⑨/市民健康セミナー	10
看護学校58周年記念講演/看護学校予定/後記	11
外来診療担当医師表	11~12

主な行事予定

7/ 2	千葉県下国立病院定例連合研究会
7/ 2	千葉県下看護学生体育大会
7/22	第92回市民健康セミナー 「認知症について~アルツハイマー病をめぐる~」
7/25	トトロの夏祭り
8/25~27	関東信越ブロック事務所内部監査
8/25	平成23年度関東信越ブロック採用試験(看護職員)
9/30	第93回市民健康セミナー 「認知症~医療と介護~」

新病院のご案内

新病院も5月29日・30日・31日の三日間を掛けて引越いたしました。特に29日の入院患者さんの引越は、全職員の協力で無事に予定時間より早く完了致しました。

その後、外来診療部門の引越、事務部の引越もスムーズに進み6月1日の開院の準備は万全の体制になりました。その他各部門が事前に引越をして頂いて、29日を万全で迎える体制で協力して頂きました。

今後は、旧棟の解体工事が始まり駐車場が一層狭くなりますが、工事箇所の部分整理をし、出来るだけ患者専用駐車場を確保してまいります。毎月のように道筋の変更がありますが、早く駐車場を確保するためにご協力をお願い致します。

さて、新病院も開院して1ヵ月たちます。まだ職員全てが新病院のシステムや配置を把握しきれていない部分もありますが、全職員早く慣れるように努力しております。

低層棟の1階受付や2階外来診療部門の待合い椅子の不

足が現実となりました。

また、高層棟の3階以上の病棟部門も、使い勝手が判らず患者さんやご家族にご迷惑を掛けていますが、宜しくお願いいたします。現在、各フロアーにありますサインにつきましても、仮の案内になっていますが、各部門や患者さんからの意見を聞いて正式な物にいたします。（企画課）

【高層棟】

- 1階部分は、救急外来、診療放射線部門、超音波検査室、内視鏡検査室等
- 2階部分は、人間ドック、リハビリテーション、外来化学療法室、中央処置室、検体・生理検査部門、食堂・売店等サービス部門
- 3階部分は、手術部門、病理検査部門、救急病棟等
- 4階からは、東・西入院病棟で8階まで入院病棟になります。

【低層棟】

- 1階部分は、医事受付、会計、医療相談等、薬剤部門、栄養部門、サービス部門、中央監視室等
- 2階部分は、外来診療部門等
- 3階部分は、管理部門、医局、会議室等

新任挨拶



呼吸器外科医長 齋藤 幸雄

平成22年4月1日より千葉医療センターでお世話になることになりました。昭和57年千葉大卒で、本院に新設された呼吸器外科を担当します。

呼吸器外科は胸部一般外科とも呼ばれていて、胸部外科の中で心臓・大血管を除いたその他もろもろの診療を担当する科です。胸部の腫瘍性病変、自然気胸も含めた肺嚢胞性疾患、肺化膿症・膿胸などの炎症性疾患、胸部外傷等が代表的な取り扱い疾患です。私の外科医としてのモットーは楽しく仕事をすることです。外科治療が良質な医療を提供するためにはスタッフのモチベーション・チームワークが最も大切で、スタッフが楽しく働ける職場は良質な医療提供を実践していると考えています。

なにぶん現在呼吸器外科医は私一人で、皆様には多大なご迷惑をおかけすると思いますが、宜しくお願い致します。



神経内科医長 古本 英晴

この4月に、大学医局の指示に沿い、外房地区の公立病院から当院へ赴任してまいりました。

当院の神経内科は千葉大学神経内科の関連施設で、2004年に発足し、一時は3人体制でしたが、この2～3年は常勤医1名で運営されてきました。私の赴任によって平均年齢は上昇しましたが、一応複数の医師が診療に従事する体制になりました。

当院は学生実習や研修医教育も行うなど、外房地区とは違って変わって人的資源・医療資源に恵まれています。

「診療・教育・研究」の三本の柱——あたかも大学のようですが——のバランスをとり、自己研鑽に努め、一人で頑張ってきた根本先生と協力して、千葉市を中心とした医療と医学に少しでも寄与できるように努力したいと思います。

新臨床研修医紹介

研修1年目



飯田 大輔

研修医の飯田大輔と申します。指導医の先生方のバックアップがある中で、自分が考えたことを実行させてもらえることが千葉の魅力であると日々感じております。

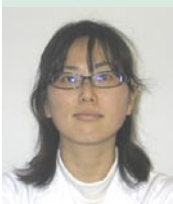
1年目の研修医で生意気な面もあるかもしれませんが、よろしくお願い致します。



石田 唯人

今年度1年間お世話になります。スタッフの方々や患者さんから多くを教わりながら、充実した研修に取り組んでいます。

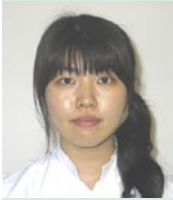
患者さんに少しでも笑顔になってもらえるよう、知識・技術・心を磨いていくことが研修の目標です。



大黒 晶子

当センターで2年間初期臨床研修を受け
ます大黒晶子と申します。現在、多くの方
の力をお借りして学ぶことの多い毎日を過
ごしています。

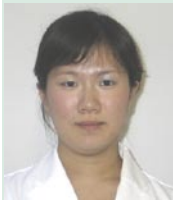
患者として、患者家族として病院にかか
わってきた時の心を忘れずに研修に励みた
いと思います。



亀井 未央

研修医生活が始まって3ヵ月が過ぎまし
た。まだまだ不慣れなことばかりですが、
毎日少しずつ知識を増やし、技術を磨いて、
精進していきたいと思ひます。

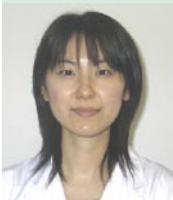
1年間どうぞよろしくお願いいたしま



金 佑 吏

研修医1年目の金佑吏(きんゆうり)と申し
ます。妊娠出産で患者としてお世話になっ
た病院にご縁がありまして、4月より今度は
医師として勤務させていただいております。

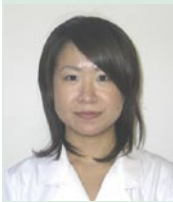
私が患者として感じた千葉医療センター
の良さを、少しでも多くの患者さんに感じ
ていただけるように、日々精進してまいりま
す。よろしくお願い致します。



関 聡 美

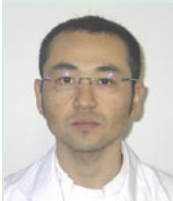
研修が始まって3ヵ月が経ちますが、ま
だ慣れないことも多く日々勉強になること
ばかりです。

感謝の気持ちを忘れず、何事にも熱意を
持って励みたいと考えております。これか
らもうよろしくお願い致します。



富永 敦子

この4月より1年間初期研修医としてお世
話になります、1年目の富永敦子と申しま
す。医師になってまだ数ヵ月、病棟では分
からないことも多く勉強の毎日です。少し
でも患者さんの力になれるようになりたい
です。どうぞよろしくお願い致します。



戸村 正 樹

はじめまして、こんにちは。研修医1年
目の戸村正樹と申します。医者になって
3ヵ月が経ちましたが、毎日が新鮮で、緊
張感を持って研修に臨めております。

医者としての第一歩を千葉医療センター
で踏み出せたことに感謝しております。

千葉の医療のために微力ながら貢献出来
ればと思っておりますので、今後ともよろ
しくお願い致します。



中野まどか

雪深い富山での大学生活の後、幼稚園か
ら高校まで過ごした千葉県で研修ができ
る事を大変嬉しく感じています。

ご指導くださる先生方、スタッフの方々、
そして患者さんに感謝して、精一杯勉強さ
せて頂きたいと思ひます。



焼田 康 紀

管理型で2年間お世話になります。

医療センターでの研修の中で日々成長
していきたいと思っています。

まだまだ未熟で至らない点も多々ある
かと思ひますが、精一杯頑張りたいと思
ひますのでよろしくお願い致します。

研修 2 年 目



明 石 英 之

研修2年目の明石英之です。

千葉大の外科研修プログラムで、今年
1年間外科と心臓血管外科にお世話にな
る予定です。わからないことだらけで皆
様にはご迷惑をおかけすることと思ひま
すが、どうぞよろしくお願い致します。



辛 寿 全

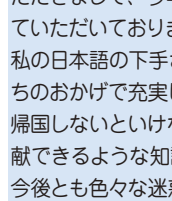
はじめまして今年1年間国立千葉医療セ
ンターで研修させていただいている辛です。
去年は1年間千葉大学で研修していました。

出身大学は岩手医科大学というところ
で千葉県が出身であったためこちらで研
修させていただくことになりました。今後
も色々迷惑をかけると思ひますがよろし
くお願いします。



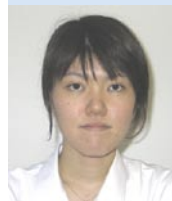
スフィ・ノルハニ

はじめまして。多民族・多宗教であるマレー
シア出身のスフィ・ノルハニと申します。日本に
初めて来たのは大学1年生のときでしたが、早く
も8年間が経ちました。去年、出身大学の千葉
大学医学部附属病院で1年目の研修をさせて
いただきまして、今年4月から千葉医療センターで2年目の研修をさせ
ていただいております。毎日、言葉の壁と必死に闘っている私ですが、
私の日本語の下手さを気にせずいつも熱心に指導してくださる先生た
ちのおかげで充実した日々を送っております。残念なことに、来年は、
帰国しないといけないことになっておりますが、国の医療の発展に貢
献できるような知識などを身につけて頑張っていきたいと思ひます。
今後とも色々な迷惑をかけると思ひますが、よろしくお願い致します。



原 彩 佳

はじめまして。多民族・多宗教であるマレー
シア出身のスフィ・ノルハニと申します。日本に
初めて来たのは大学1年生のときでしたが、早く
も8年間が経ちました。去年、出身大学の千葉
大学医学部附属病院で1年目の研修をさせて
いただきまして、今年4月から千葉医療センターで2年目の研修をさせ
ていただいております。毎日、言葉の壁と必死に闘っている私ですが、
私の日本語の下手さを気にせずいつも熱心に指導してくださる先生た
ちのおかげで充実した日々を送っております。残念なことに、来年は、
帰国しないといけないことになっておりますが、国の医療の発展に貢
献できるような知識などを身につけて頑張っていきたいと思ひます。
今後とも色々な迷惑をかけると思ひますが、よろしくお願い致します。



原 彩 佳

4月より研修させていただいております、2
年目研修医の原彩佳です。たくさんの方々
に支えていただきながら、充実した毎日
を送っています。研修を通して、より多くの
知識と経験を積めるよう、頑張りたいと思
ひます。1年間よろしくお願い致します。

ネパール口唇口蓋裂プロジェクト

— 時間について —

前手術部長 佐藤 二郎

東京女子医科大学 八千代医療センター 麻酔科教授

かつて、沖縄伊江島の米軍基地返還闘争を率いて、知恵に富み、高い道義に立った根気のいる闘いを続けた阿波根昌鴻さんは、その著書「米軍と農民」の中で、「教育というものは、実に金と根気がいる。長い間の農奴の考え、習慣性がしみついていて、人もいいし解放的で欲もなく、実に優れた、人間として最高の青年でも、使いにやると友だちと話しこんで忘れてしまう。時間にはまったく無関心である」と述懐し、時間の観念に対する教育の重要性を指摘した。

ネパールで保健医療活動をしていると、同じことを考えさせられることがしばしばある。唇裂口蓋裂手術を受けた患者達の術後の生活の質を調査するために東ネパールへ出かけた時のこと。先発隊と地元有力者を通じて前もって日時を指定して96人の術後患者に訪問の約束を取った。時にはたった1人の元患者に会うために、山また山を縫っていく悪路を数時間も車で行かねばならない。消耗しきってたどり着いてみると果たして患者は現れない。土地の相談役に尋ねると、仕事でどこかへ行ってしまった、何時戻るかは分からないとの返事。「何時」というのも、その日の夕方かも知れないし、数ヵ月後かも知れない、或いは二度と戻ってこないのかも知れない。そんなことで、聞き取り調査できたのは24人に過ぎなかった。遠隔の集落や部落を訪れて回っているうち、対象とした元患者が偶々そこにいれば会えるし、いなければ会えないだけのこと、と悟る頃には短い現地聞き取り調査期間は終わろうとしていた。

彼らは並んで順番を待つことが苦手である。我々の手術プロジェクトでは初日に患者全員の手術法決定と全身状態チェックを行う。列を作って待たせているとまもなく歯の歯が欠けるように一人二人と彼らは消えてしまう。手術当日の朝になって予定の患者が消えていることに気づくことも稀ではない。彼らに悪意があるわけではない。自分の順番がくるのに備えて待つという観念がないだけなのだろう。毎年世話になっているホテルのオーナーは苦情を言う私に「おまえはネパールにいるんだよ」の一言を与えてくれた。

彼らに責任感や道徳心がないというのでは毛頭なく、そもそも我々が考える「時間」の概念を伴う「約束」という観念が稀薄なのではないのだろうか。輪廻転生を基調とするヒンズーの人生観が色濃い影を落としているのだろうか。ネパールへ行くといつも世話になっているブラシャンタ先生は言う、「ネパール人にとって誕生日がいつかは重要ではないんだよ」と。年齢も30才、35才、40才などと切れのいい5歳刻みで答える人が少なくない(heaping現象)。我々



写真1：孫と共にいる老女。田舎町ダブチャを朝訪れた時に撮ったこの姿は午後我々が町を去る時も同じだった。



写真2：ヒンズーの経が流れる朝、この二匹は何を考えているのだろうか。

の手術を2年続けて受ける患者が前回手術時よりも若い年齢を答えたりする。

彼らの時間の感覚にはネパールの人と自然との関係も関わっているのではないか。日本は自然も小さく御しやすいから、花鳥風月だとか四季のある美しい自然なんて言われているのかも知れない。ヒマラヤはじめ圧倒的なネパールの自然に人は太刀打ちできない。ただ猛威が過ぎるのを、或いは豊かな恵みが訪れるのを待つしかない。待つとはなしに待つ。それが彼らの時間の処し方ではないかと思った。孫を抱えて何をするともなく日がな路上に座っている老女と(写真1)、汲々として時間刻みで生活に追われている日本人と、いったいどちらが自分の時間を惜しみ、大切に思っているのだろうか。英語のlifeと動詞形のliveには「人生、生涯」と「生活」の両義が、さらには「人生を享受する」、「生き生きとしている」、そして「命のように大切なもの、ひと」といった意味まである。

連携医院紹介

医療法人社団貴祥会 耳鼻咽喉科なかのクリニック

千葉市中央区末広 2-12-14

院長 仲野公一 ☎ 043-261-8434

昭和63年に、旧国立千葉病院で研修医として勤務させていただいて以来、千葉医療センターの皆様には大変お世話になっております。当院は平成19年4月



に、千葉県庁の傍らで、耳鼻咽喉科、アレルギー科、気管食道内科として開院しました。千葉医療センターには普段から緊急症例、手術症例を快く受け入れていただき感謝しております。当院から紹介させていただいた症例を含めて、年に数回耳鼻咽喉科の沼田勉先生のご指導のもと、手術のお手伝いをさせていただいております。可能な限り今後も続けさせていただければ幸いです。研修医のとき、医局に新病院の完成予想図が掲げられていたのを記憶しています。新病院開院直後の千葉医療センターニュースに、一文を寄せさせていただくことに感慨深いものがあります。今後も耳鼻咽喉科の先生を含めまして、多くの先生方にお世話になると思います。引き続き宜しくお願い申し上げます。

医療法人社団稲正会 近藤医院

千葉市稲毛区稲毛東 3-6-37

院長 近藤正晴 ☎ 043-243-9096

新病院落成おめでとうございます。新しいシステムに慣れるまで大変かと思いますが、スタッフの方々のご活躍と貴病院の益々のご発展を願っております。



当院は父正也が千葉国立病院（貴院前身）勤務後、昭和23年に稲毛に開業いたしました。現在は有床診療所として届け出しておりますが、人員の都合で入院治療は行っておりません。私の専門は整形外科ですが、外科・内科も標榜しており、一般診療・リハビリテーション・往診などと共に、以前千葉船員診療所を併設していた関係で、外国人船員の診療、海外渡航者に対する肝炎・狂犬病・コレラ等のワクチン接種も行っております。

貴院には、日頃から緊急性の高い患者さんや、専門的な検査治療を要する患者さんの依頼を、快く受け入れていただき感謝いたしております。今後とも、どうかよろしくお願いいたします。

医療法人社団 中山内科クリニック

千葉市若葉区千城台北 3-21-1 ラパーク千城台 2F

院長 中山隆雅 ☎ 043-236-5800

医療センターの先生方には、日頃から大変お世話になっており心から御礼申し上げます。



小生は、30年近く前に第一内科の研究室の大先輩で

ある武者現名誉院長にお願いして、貴院で肝疾患の血管造影を研鑽させて頂きました。その当時から先生方とパラメディカルの方々の関係が良好で、患者さんにとって心のこもった暖かい病院だと感じていました。

患者さんの紹介は、以前は、旧知の先生に個人的にお願いしておりました。最近では患者さんによって専門各科で、お会いした事の無い先生にも依頼させて頂いていますが、いつもご丁寧な返信を頂き有り難く思っています。

当院からは、車が利用できない方でも、モノレールを利用して貴院まで便利に受診できているようです。最近、当院休診日に、かかりつけの患者さんの具合が悪くなり、入院させて頂いて改善し、逆紹介頂いた例が続きました。かかりつけ医としましては、感謝と共に申し訳ない気持ちで一杯です。

このたび病院が改築され、救急にも更に力を入れて下さることは、我々にとっては、本当に頼もしい限りです。しかし通常の診療でも救急でも、先生方にご迷惑をおかけしないように、できるだけ本当に必要な患者さんを、タイムリーにお願いしたいと考えていますが、至らぬ点多いと思います。何卒今後ともよろしくお願い致します。

林内科医院

千葉市中央区松波 1-17-5

院長 宮下元子 ☎ 043-251-8028

日頃から千葉医療センターの先生方、スタッフの皆様には大変お世話になりまして心よりお礼申し上げます。またこのたびは貴センターご新築、おめでとうございます。

当院は先代の父が昭和38年、松波町に開業し、私は63

年に継承致しました。

大学の医局員時代は内分泌疾患を専門としていましたが、千葉に戻りましてからは、諸先生方から教えて頂き、地域の皆様から学び、一般内科医院として続けることができました。

主人は勤務医（東邦大学医療センター佐倉病院）ですが、当院も時々手伝ってもらっています。古くなった建物は少しずつ手直しして今年6月に外装も整いました。

貴センターの諸先生方には時間外も問わず患者様をお願いし、対処して頂き、大変心強く感謝の気持ちでいっぱいでございます。

皆様の益々の御発展をお祈りしますと共に、これからもご指導くださいませようお願い申し上げます。



診療トピックス ④②

— 加齢黄斑変性の治療について —

「あれ？このサッシこんなに歪んでいたかしら？」

「ん？この基盤の目おかしいぞ？」などと思うことはありませんか？

まっすぐなはずの線が歪んで見える症状を変視症あるいは歪視（わいし）といいます。このような症状は、網膜（目の底にあり、光を感じる神経細胞でできた薄い膜。カメラでいうフィルムにあたる部分）の様々な病気の始まりのサインとなっていることが多いのです。なかでも黄斑（網膜の中心部にあり、神経細胞が集中し、視力のもっとも敏感な部分）に病変があるとき、とくに歪みが多くみられます。

黄斑の病気のなかで、最近その治療法が目覚ましく進化を遂げているのが、**加齢黄斑変性**です。

加齢黄斑変性は大きく2つの型に分類されます。**萎縮（ドライ）型**では黄斑部がゆっくりと変性・萎縮し、視力低下もゆっくりです。一方**滲出（ウェット）型**では黄斑部に異常な血管（新生血管）が生えてきます。新生血管はもろく、すぐに壊れてしまい、そこからむくみ（浮腫）や出血が起きて、急激に視力低下します。

滲出型の加齢黄斑変性に対しては、レーザー光凝固・放射線照射・外科的治療・内科的治療など過去に様々な治療が行われてきました。しかし神経に対するダメージが強すぎてかえって視力が下がる、あるいはほとんど効果がない、などの問題がありました。唯一、病変がまん真ん中を避けている方に限って、レーザー光凝固を施行するだけでしたが、これもよい適応となる方は少なく、治療の大変むずかしい疾患でした。

わが国では6年前に、新生血管を閉塞させる治療である**PDT（光線力学療法）**が開始されました。ピスタインという光に反応する薬剤を体内に注射したあとに、病変部にレーザーを照射する方法です。使うレーザーが弱いので黄斑のまん真ん中の病変でも治療できるようになりました。これにより視力低下をまぬがれ、視力維持が期待できるようになりました。しかし、初回治療時には2泊3日の入



加齢黄斑変性の眼底。出血や滲出斑がある。

院が必要であったり、治療成績も良好とはいえず、新たな治療法が期待されていました。

その後、**抗血管新生薬療法**が開発され、あいついで新薬が発売されたことで、加齢黄斑変性に対する治療方針は劇的に変化してきています。抗血管新生薬療法とは、血管新生を抑える薬剤（抗VEGF抗体）を眼内に注射することで、新生血管の増殖や成長を抑制する治療法です。未認可薬であるアバスチン（もとは大腸がんの治療薬）が最初に導入され、その後、眼科領域で厚生省の認可薬として、2008年にマックジェン、2009年にルセンチスが導入されました。6週間あるいは4週間ごとの反復投与により網膜の状態を改善し、制限はありますが、視力の向上も期待できます。とはいえ、決して安価な治療ではなく、根気強い通院と継続しての反復治療が必要な点も、今後改良が望まれるところです。

単独療法だけでなく、複数の治療を併用する方法も試みられており、加齢黄斑変性の治療成績は、数年前と比較しても格段に向上してきています。

眼科 窪田 真理子

ウズベキスタン日記 ⑥

千葉医療センター看護師 竹澤 志乃

竹澤志乃さんは千葉医療センターの看護師ですが、JICAの青年海外協力隊として平成21年1月6日から平成23年1月5日まで、ウズベキスタン共和国のタシケント救急医療センターにて医療ボランティア活動をしています。現況報告を日記風にセンターニュースに掲載することになりました。

ウズベキスタン共和国は中央アジアに位置する旧ソビエト連邦の共和国で首都はタシケントです。

4月1日

今日から、病院に針捨てボックスが導入されました。今までは、使用済みの針、注射器、点滴ラインはすべて次亜塩酸塩で消毒し、ペットボトルに入れ、ある程度たまったらセメントで固めるといった法律で決められた処理方法を、看護師や看護助手らがしていました。消毒液の中に針だけがプカプカ浮かんでいたり、とても危険でした。日本では耐貫通性で携帯できるようなものもありますが、まだこちらは段ボール製で各部屋に1つ。それでも着実に前進しているなあと感じるできごとでした。



針捨てボックス

5月

いよいよ果物天国のスタートです。イチゴが1kgで100円、サクランボが1kgで200円弱。これからラズベリー、杏、メロン、スイカ、桃…。一生分食べて帰ります！



市場の果物コーナー



アラル海の海岸線。昨年より5m後退している。



ヒヴァ、塔の上から眺めたイチャン・カラ

5月14日

現在、ウズベキスタン国内では、私を含め5人のボランティア看護師が活動しています。今までなかなか情報交換ができていなかったのも、看護師会というものを立ち上げ、第1回は看護記録について話し合いました。私の活動する病院での最大の問題は、ロシア語とウズベク語とが混在して記載されていて、スタッフらがお互いに理解できていないということです。記録を書くこと自体が目的になってしまっていて、せっかく書かれた記録から情報を得て看護に活かすということは、なされていない現状です。まだまだ時間のかかりそうな問題です…。

6月11～15日

ホラズム地方へ旅行に行ってきました。ソビエト時代の灌漑事業などによって水量が1/10以下になってしまったとされるアラル海。それでも目の前に広がるのは、まるで千葉で見るとような広大な海。あまりの規模の大きな話に、想像が及びません。そして、砂漠のオアシス都市、ヒヴァ。二重の城壁に囲まれた内城イチャン・カラは、もしお土産屋さんがなかったら、中世の時代へとタイムスリップしてしまいそうでした。建物どころか山も何も無い、ただただ平らな地平線から上る日の出、見たこともないほどの満点の星空。そして何千年も続く人間たちの営み。人間の小ささと、でも可能性と…。いろいろ感じることでできる旅となりました。

6月25日

今日からチツラ（酷暑）です。40日間40度超えの日々。去年よりも湿度が高く、とても暑く感じます。私の活動も残り半年。悔いの残らないように頑張りたいと思います。

地域医療連携室だより

新病院になって

新病院になって1ヵ月がたちました。

当初は、予約患者さんは少なかったものの、やはり患者さんをお待たせすることがありました。FAX予約申込みもお待たせした日がありました。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

6月1日より画像検査の申込予約をして頂いた場合、従

来のご予約通知書の他に検査予約票、検査説明文書（CT検査のみ）、検査説明確認書を送付しています。ご確認のうえ、宜しくお願いします。

また、画像をCDでお渡ししています。フィルムの方がよろしい場合は、お申し出頂ければ対応致します。

今後も地域医療連携室は患者さんが安心して適切な医療を受けられるよう、努力していききたいと思います。

（地域医療連携室）

医療安全管理室トピックス

念願の新病院が開院して、早くもひと月を迎えます。患者さんからも「きれいな病院になりましたね。職員の皆さんも働きがいがありますね。」と声をかけていただくことがあります。そんな時私は、「千葉医療センターでの治療を選択して頂きありがとうございます。患者さんにとって安全で質の高い医療・看護を実践していきます。」と胸を張って言える病院の職員でありたいと思っています。きっと皆さんも同じ思いでいるでしょう。

しかし、病院とは決して安全なところではありませんし、間違いを起こさない完璧な人間などいないのです。だからこそ、私たち医療者は深い知識・確実な技術・そして高い倫理観を持って働くと同時に、何らかのシステムで防げるリスクは回避

せねばなりません。

さて、皆さんはどれくらい日々の医療や看護におけるリスクについて、予測をしながら働いていますか？安全で質の高い医療や看護を提供していくには、起こりうるであろうという様々なリスクに鈍感であってはいけないと思います。たとえ新人さんであっても、あれ？これで大丈夫かな？という鋭い感性を持ってほしいと思います。これは医療・看護を受ける患者さんにも言えることです。全て医療者にお任せでは、本当の安全・安心を手に入れることはできないと思います。

今後も患者さん、そして、あらゆる職種の方々の協力を頂きながら、このきれいな病院にふさわしい、質の高い医療・看護が当たり前実践できるよう、医療安全管理という部門から、共に考えていきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。
(医療安全管理室 西原)

「お薬の話」をはじめて ～薬はどうやってできるの？～

新しい薬はどのように創られているか知っていますか？今回は、くすり創りについてお話したいと思います。薬のもと、天然の植物、土の中にいる細菌などの微生物が作る物質、体の中の成分（ホルモンなど）等から見出されています。その中から有効成分を取り出し、化学的に変化を加えたり、化学合成したりすることによって薬が創られてきました。その物語をいくつか紹介します。

●ヤナギの樹皮からアスピリン

現在、痛みどめや熱さまし等に用いられるアスピリンという薬、その物語はヤナギの小枝から始まります。熱をさげ、痛みを止めるのにヤナギの小枝や樹皮を使った記録は昔からあります。紀元前のギリシャの医師、ヒポクラテスは解熱、鎮痛にヤナギの樹皮や葉を用いたといわれています。また、「楊枝」はもともとヤナギの小枝のことで、その先端を嚙んで歯痛を止めたものであるといわれています。そのヤナギから有効成分が取り出され、さらに副作用が軽減されるよう研究され、アス

ピリンができたのです。

●ケシの実からモルヒネ

ケシの種子や実は東洋でも西洋でも昔から様々な目的に使われてきました。ケシの未熟果につけた傷からにじみ出る乳液を集め、乾燥させたものがアヘンであり、薬として使われていました。そのアヘンから分離されたのがモルヒネです。モルヒネは現在もがん患者さんの痛みを緩和するなどの役割を果たしています。

●アオカビからペニシリン

抗生物質であるペニシリンはイギリスの細菌学者フレミングによって発見されました。ブドウ球菌という細菌を培養していたところ、偶然その培養皿のなかにアオカビが入りました。その周りだけ菌が溶けていたことから、カビの中には菌の成育を抑える成分があることがわかり、ペニシリンが発見され、感染症に欠かせない抗生物質のもととなったのです。

現在では、バイオテクノロジーや、ゲノムもくすり創りに使われています。皆さんが飲んでる薬には、どのような物語があるのでしょうか？少しでも薬に興味をもつきっかけとなれば幸いです。
(薬剤科・野村理恵)

栄養管理室だより ④

手洗いのススメ

夏も本番になり、暑さも厳しくなってきました。この時期に目に見えないところで活発に活動しているのは食中毒菌です。食中毒というと、旅館やレストランなどで発生すると思われがちですが、家庭の食事でも起こる可能性は十分ありますので、予防方法をしっかり覚えて実践してみましょう。

【食中毒予防の3原則】

① 食中毒菌を付けない。(清潔、洗浄)

調理をする前には必ず手洗いをしましょう。見た目汚れていなくても、手には細菌がたくさん付いています。また、肉・魚・卵などを扱った後も、必ず手洗いをしてから次の調理に移りましょう。そして、盛り付けの前、食べる前にも手洗いをしましょう。

手だけではなく、生の肉や魚を切ったまな板や包丁は洗剤と流水で十分洗いましょう。

調理の最中では、生の肉や魚の汁が、サラダなど生で食べる食べものに付かないようにすることも大切です。

② 食中毒菌を増やさない。(迅速、冷却)

調理後すぐに食べない場合は室温に放置せず、冷ましてから冷蔵庫にしまいましょう。

③ 食中毒菌をやっつける。(加熱、殺菌)

加熱する場合は、十分に加熱しましょう。

調理器具は熱湯をかけたり煮沸消毒または塩素消毒し、細菌をやっつけましょう。

手や調理道具の消毒をする場合、石鹼や洗剤で汚れを落としてから消毒をしないと、消毒の効果は薄れてしまいます。消毒するから大丈夫と思って洗わずにそのまま消毒することはやめましょう。
(栄養管理室)

A N E C D O T A (28)

— 隠れた史実 —

前研究検査科長 高澤 博

前回は、医学所創設期の文久2年(1862)前後の江戸医療環境について、幕府側の施策、江戸医界、そして疾患に対する庶民の取り組みの仕方の三つの観点から俯瞰しました。今回から、各論的に資料を模索し、外科分野の実際、内科(本道)の医療水準を中心に考察していく予定です。

山内豊城が「玉とり日記」なる疾病随筆を残しています(図1)。この日記は、彼が、嘉永2年11月4日(1849)、睾丸腫瘍手術を受け、その病床日記ともいえる貴重な疾病体験記です。医学史実としても貴重な資料です。この時期の社会情勢は、黒船来航前、外国船が頻りに出没し、奥医師・表医師にとっては、外科・眼科以外は蘭学禁止の渦中にありました(嘉永2年3月15日、1849)。この蘭方禁令は、安政5年6~7月(1858)、五カ国との修好通商条約調印をまって同年7月3日解かれます。が、その以前の嘉永2年には牛痘種法が行われ始め、嘉永2年11月7日、緒方洪庵が大坂古手町除痘館で牛痘種痘を始め、同11日、江戸では伊東玄朴が鍋島藩邸内の子供に牛痘接種を始めて行います。さらに、同18日、下町の桑田立斎が玄朴から牛痘苗の分与を受け一千二十八名に接種し、同25日には、越前福井の笠原良策が北国諸藩の医官に分苗し、六千六百人に種痘を行いました。その発症予防への効果と相俟って、安政4年3月(1858)、江戸町年寄(町奉行傘下)が北海道における種痘医を公然と募集したので、蘭方である種痘術が公認されたと解釈し、同年5月(1858)、伊東玄朴らの神田於玉ヶ池での種痘館の開設、続いて万延元年7月10日(1860)下谷和泉橋に移った種痘館を幕府に収めての、**官立種痘所**の誕生があります(現東京大学医学部淵源)。この後、西洋医学所、医学所、医学学校兼病院、東校、東京医学学校、東京帝国大学医学部、東京大学医学部へと発展改称します。この原稿はまだ「医学所」の近辺を逍遙しています。

さて、本題に戻って、蘭方受難期にあった嘉永2年(1849)の睾丸手術を見てみましょう。山内豊城(47才)に関しては後述するとして、彼の右睾丸腫瘍手術について先に述べます。

二年ほど前から右睾丸の腫大、痛みが現れ、潰瘍形成「はちすのはなのひらくごとく」、嘉永2年正月には歩行も困難になる。医師(義弟佐藤泰然《46才》とその娘婿林洞海)に相談するが治療には、摘出手術しかないと言われる。しかし、文献上は睾丸腫瘍摘出術の記載はあるが、医師たちにはその経験がなく、手術の困難さも告げられ、迷った末に手術を決断する。担当の医師集団は当代屈指の蘭方医たちです。その手術前の複雑な心情を、豊城は「身をせむるあたしきげばけふこそは、いざ切りすてめしめをまためや」と詠んでいます。執刀戸塚静海(51才)、林洞海(37才)、三宅良斎(33才)が当たり、伊東玄朴(51才)が指示を出し、大槻俊斎(44才)は蘭書をみながら手術手順を確認していく。竹内玄(げん)洞(どう)(45才)は薬係りとして、豊城の気分を聞いてくる(無麻酔!)。玄朴の弟子二人が足押さえに、洞海の弟子二人は外回りにつく。彼らは、後の種痘館立ち上げに中心となる蘭方医たちです。以下本文を再載しますが、一部漢字に置き換え、筆者注も加えました。「かくてその手さだまりて良斎刀をおろして、陰莖のわきより[ふぐり]の右のかたを5~6寸(18cm前後)も断ち割りたりとか、おのが心にはただ冷水注ぐかと思われぬ。此のとき午の時の鐘(午後12時)聞こえけり。それよりさて切たる中を開きて見さむるなるべし、おりおりひびく事もありけれど、さのみいたしとも堪えがたしとも思われず。おりおり水注ぎ洗うをばひやひやと覚えられき。人々様々に計らいて、精系を糸にて結びたる時は、命のかぎりによやと思ふばかりにて、ただ腹の中に物さし入る心地ぞせられる。ほどなくさて切り捨てたるにや、其の心地もとみになおりぬ。さてあしき玉取り出すとて、左右にまたいたる筋ども切るに、二度三度はひびきつれど、それしか何ばかりの事もなし。此の玉ぬき出たる心地……例えんに物なく心よくすがすがしくぞ覚えける。今はさらに千歳の命つきたりと心も落ちいたるけにや、疵口ぬいつくろう折り、中々に堪えがたくて人々に笑われたりき。此のときまたく日暮れたり」摘出睾丸腫瘍は表面凹凸不同があり、形やや扁平不整、12x10cm大、400g。断面は「いといたく色も乱れ」(多彩)、「いまやくされ出べき様なり」(軟化壊死?)とある。術後21年間延命した。現在から推定すると、睾丸結核、奇形種、精上皮種の類の疾患か。

山内豊城はかつて文政5、6年の頃(1822~3)、興津隼人の祐筆(現代の



図1：山内豊城肖像。術後の写真か。「蘭医佐藤泰然」村上一郎収載。

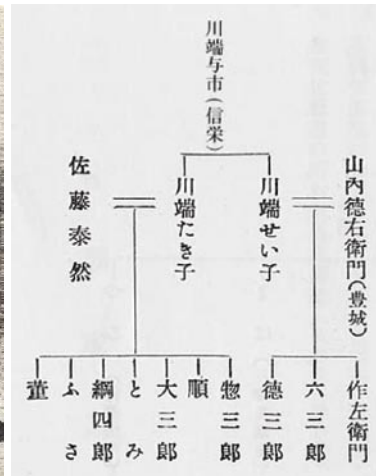


図2：佐藤泰然と山内豊城関係表。出典図1に同じ。

書記官にちかひ役職)を勤めるかたわら、出石藩儒、榛運平の許に手習いに通った。その頃、同じ手習い仲間であった伊奈陽之助(遠江守忠告)と、その家臣田辺庄右衛門(後佐藤泰然)と昵懇となった。その後、親交が進み、豊城の妻川端せい子の妹たき子を、泰然が娶るほどに刎頸の交わりを結ぶ。さらに、泰然の娘ふさが豊城の次男作左衛門に嫁する(図2)。天保6年、泰然は豊城に伊奈家家臣の職を譲り(本人は名目隠居したことによる)、妻たき子と息子二人(山村惣三郎、松本良順)を豊城に預け、長崎留学を決定する。

話が戻りますが、蘭学を志した泰然は、天保元年(1830)松本良甫(泰然息良順の義父)と共に京橋桶町(現京橋一丁目)にあった蘭方医足立長庵に入門した。天保5年8月、林洞海もこの塾に入門して、泰然と肝胆相照らす仲になり、天保5年12月、泰然より先に長崎行を決行する。両者は長崎で大石良逸(鍋島藩医)に師事し、泰然は二ノマンに和蘭語を学ぶ。緒方洪庵も天保7年からの長崎留学で、同じ二ノマンに師事し、後の蘭学の両巨頭が長崎で知り合うことになる。大槻俊斎もこの地で洪庵の面識を得る。

天保9年3月10日、4年間の長崎留学を終え、林洞海と共に江戸に立つ。このときシーボルトの高弟、榎林栄建の門で知り合った、三宅良斎、岡南洋、島田玄礼も同行した。帰府直後にすぐに両国橋広小路近辺の薬研堀に和田塾開講し、林洞海ほか上記3名が入塾し、教師を勤めた。

江戸在住の大槻俊斎が当時最高の蘭方医によって豊城の「玉とり」手術が決行され、現時点から振り返れば、勇猛果敢な手術であったことが理解いただけたと思います。因みに、佐倉順天堂での卵巣水腫手術は嘉永5年(1852、夏)で、山内提雲も佐藤尚尚の手伝いとして、これに立ち会う。佐倉でも麻酔剤は使用しなかったが、患者は痛しとも何とも云わなかったとある。同時期、嘉永5年4月25日、秩父大宮郷の医師、伊古田純道は、秩父郡吾野南川医師、岡部均平と協力して正丸峠南麓の農家で帝王切開を行い、難産の母体を助けた。これも無麻酔です。モールトンのエーテル麻酔が弘化3年(1846)、シンプソンのクロロホルム麻酔が弘化4年(1847)です。伊東玄朴の日本最初のクロロホルム麻酔試行が、文久元年6月29日(1861)で、吉原紺間(ほうかん)桜川喜孝の息子由次郎の脱肛を、クロロホルムを用いて、右足切断を行ったのが嚆矢です。華岡青洲は、文化2年10月13日(1805)(文化元年の説あり)、青洲開発の麻酔薬「麻沸散」(通仙散)投与による全身麻酔下での乳癌手術を行った。シンプソンのクロロホルム麻酔に先立つこと43年です。手術消毒法について日記には単に「水」とあります。南蛮流外科では洗創料として焼酎が用いられたが、刺激が強いため、石灰水が推奨されている(「病家須知」平野元良)。リスターの石炭酸消毒法の発見は慶応3年(1867)で、鳥羽伏見の戦(慶応4年)時にウィリスが用いた手術消毒法は過酸化マンガン水です。明治元年(1868)箱館戦争で、フランスより帰国した高松凌雲が、石炭酸水を戦傷病者の治療に始めて使用した。

資料は次回に記します。

認定看護師活動紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師とは??

皆様は、「皮膚・排泄ケア」ときいてどんなご想像をされるのでしょうか?

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、「ストーマ(人工肛門)ケア」、「創傷ケア」、「失禁ケア」の3点に特化した知識と技術をもつ認定看護師です。

院内ではこのような活動を実践しています。

★褥瘡ケア★

(床ずれ)の予防や、治癒の促進にむけて、適切な体圧分散マットレスを選択したり、褥瘡の状態に応じた、薬剤や、創傷ケア用品を選択し、使用していきます。

また、形成外科、精神科、外科の先生方とチームとなり、褥瘡回診の実施をしています。回診では、褥瘡の治療、予防方法の指導などを行っています。よりよいケア方法について、チームで活発に相談しながら、全病棟を回診しています。

★ストーマ(人工肛門)ケア★

適切なストーマケア用品を選択したり、使用方法の指導



や、メンタルケアを行います。

継続したケアを提供するため、「ストーマケア外来」を毎週金曜日、午前中に予約制で開設しております。

お悩みや疑問のある患者さんはぜひお立ち寄りください。

★失禁に伴うスキントラブルのケア★

スキンケア用品の紹介や、優しいスキンケア方法など指導しています。

病院内をラウンドしておりますので、何かございましたら、いつでもお声掛けください。

皮膚・排泄ケア認定看護師 谷 明美
(前列左から2人目)

メディカルQ&Aコーナー

34

Q: フィルムレスって何ですか?

A: フィルムレスとは、胸部や骨のX線撮影やCT、MRIといった医療関係の画像をフィルムで印刷しないで、モニター(ディスプレイ)で観察して診断するシステムのことを言います。

フィルムレスにする利点として次のようなことがあります。

- ・患者さんが検査室から診察室へフィルムを持って移動する必要がなくなる。
- ・以前撮影した同じ検査や他の検査との比較が容易に行える。
- ・画像の条件(拡大縮小、濃度の黒白など)を変えて表示が行える。
- ・複数の場所で同時に同じ画像を参照することが可能。

当院も2010年6月よりフィルムレスとなりました。

(放射線科 打矢)

市民健康セミナーの開催

当院では千葉市民の皆様に健全な生活を営んで頂くために、少しでもそのお手伝いができればと考え、平成14年2月から「市民健康セミナー」を当院地域医療研修センターで開催しております。

5月～6月に行われたセミナー

5月27日(木)

「梅雨のじめじめした季節 食中毒に気をつけよう」
～食中毒予防のお話～

講師：消化器科医長 金田 暁
講師：栄養管理室長 原 義隆
講師：感染管理認定看護師 大廣 澄江
講師：感染管理認定看護師 竹本 真美

6月24日(木)

「メタボリックドミノをご存じですか？」
～メタボリックシンドロームと生活習慣病のおはなし～

講師：糖尿病代謝内科医師 徳山 宏丈

今後の予定

第4木曜日 午後2時～
会場：地域医療研修センター

7月22日(木)

「認知症について ～アルツハイマー病をめぐる～」

講師：神経内科医長 古本 英晴

9月30日(木)

「認知症 ～医療と介護～」

講師：精神科医師 堀江 勇一

毎回多数の参加をいただき、大変な好評をいただいております。今後も更に充実したセミナーを企画していきたいと思っております。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

(管理課)

セミナーに10回参加された方には記念品をさしあげます。

創立58周年記念式典

千葉医療センター附属千葉看護学校
教員 上野 典子

千葉医療センター附属千葉看護学校は、昭和25年当院に千葉看護学院が開設され、58周年を迎えました。当時6月2日に入学式が行われて以来、この日を本看護学校の創立記念日として現在まで続いております。

現在までに約2000名の学生がこの学舎を巣立っていき、保健・医療・福祉・教育の分野でも活躍していると思います。これもひとえに、学生を慈しみ、育てていただいた学校・病院関係の諸先輩をはじめ、多くの方々のお陰と改めて感謝しています。

今年は大島記念嬉泉病院看護部長の吉田扶美代先生をお招きし、「緩和ケアの援助から学ぶ」の演題で記念講演を開催しました。ホスピス緩和ケアの基本方針である「患者さんと家族のQOLを高める援助」や「心理的支えや信頼関係を構築することの重要性」、「全人的アプローチ」などが具



体的に語られました。学生をはじめとする聴講者は真剣に聞き入り、日頃の看護に思いをめぐらせて、こころが揺さぶられるようでした。

このような貴重な体験を大切に、学生には温かく心のこもった看護が提供できるよう成長してほしいと願っております。

千葉医療センター附属千葉看護学校 予定

平成22年度 学校見学会：学校概要説明・進路相談

- 第1回 8月3日(火) 13:30～15:30
- 第2回 8月11日(水) 13:30～15:30
- 第3回 8月29日(日) 10:00～12:30
- 第4回 9月25日(土) 13:30～ (学校祭同時開催)

学校祭「椿森祭」

平成22年9月25日(土)

に開催予定です。
どうぞご来校ください。

<入学試験>

- 社会人入学試験 平成22年11月16日(火)
- 一般入学試験 平成23年1月20日(木)

検査担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
胃内視鏡検査 (午前)	金田 暁	阿部 朝美	斉藤 正明	伊藤 健治	秋池 太郎
	里見 大介		里見/高見	森嶋 友一	
	[豊田康義]			[豊田康義]	
	福富 聡				
大腸ファイバー(午後)	内科交替医	外科交替医	島田 典生	徳山 宏丈	内科交替医
超音波	腹部	有賀 明子	伊藤 健治	秋池 太郎	阿部 朝美
	心臓				山田 善重 (第2・4木曜日)午前

編集後記

待ちに待った新病院が6月1日に開院しました。玄関ホールに入ると、前病院にはなかったエスカレーターが、皆様をお迎えしております。案内係も玄関に駐車場にと複数人出ておりますので、お気軽に声を掛けてください。これからもどうぞよろしくお願い致します。(佐藤千春)

【編集委員名簿】

(石毛 尚起) (土志田 健) (打矢 直記)
(佐藤 正彦) (岩上 明弘) (佐藤 千春)
(小松崎 智子) (松下 守)
(副編集長 阿藤 祐一) (編集長 杉浦 信之)

外来診療担当医師表 “聞く” “聴く” “訊く” の対応を! 平成22年7月1日より

診療科		月	火	水	木	金	
受付時間は原則として、平日(月曜日から金曜日)の8:30から11:00まで							
内科	新患	杉浦信之	杉浦信之	杉浦信之	船橋秀光	斎藤正明	
		斎藤正明	斎藤正明	新島真文(偶数週) 江渡秀紀(奇数週)	森 泰子	徳山宏丈	
	再診	呼吸器内科	船橋秀光	新島真文	野口直子	弓削田多賀子	江渡秀紀
		消化器内科	伊藤健治	金田 暁	伊藤健治	秋池太郎	阿部朝美
		総合内科	後藤茂正	菰田 弘	佐々木玲奈	後藤茂正(血液)	岡澤哲也
糖尿病代謝内科	島田典生	石塚伸子	島田典生	徳山宏丈	島田典生		
神経内科	根本有子	古本英晴	根本有子	古本英晴	荒木信之(受付は10時まで)		
精神・神経科	新患		堀江勇一		木下恭子	吉村健佑	
	再診	海宝美和子	三浦大地	海宝美和子	吉村健佑	木下恭子	
循環器内科	新患	三浦大地	波木一馬(午前)	堀江勇一		堀江勇一	
小児科	再診	高見 徹(予約制)	[交替医]	亀田義人(午前)	高見 徹	中里 毅	
	安田敏行	安田敏行	重田みどり	安田敏行(内分泌・代謝)	安田敏行		
外科・消化器外科	大嶋寛子	重田みどり(アレルギー・免疫)	大嶋寛子(感染)	大嶋寛子	重田みどり		
	森嶋友一	[交替医]	豊田康義(緩和ケア)	小林 純	[交替医]		
乳腺外科	新患		荒井 学	荒井 学	荒井 学		
	再診	白松一安	荒井 学	白松一安	荒井 学		
整形外科	永瀬讓史	[交替医]	永瀬讓史	阿部 功	[交替医]		
	白井周史	手術日	阿部 功	白井周史	手術日		
形成外科	西能 健	受付は10時まで	久保田剛	久保田剛	久保田剛	受付は10時まで	
	手術日	輪湖雅彦	手術日	輪湖雅彦	鈴木文子		
脳神経外科	石毛尚起	丹野裕和	石毛尚起	手術日	尾崎裕昭		
	佐々木徳秀(不定期)	布瀬善彦					
呼吸器外科	斎藤幸雄			斎藤幸雄			
心臓血管外科		田中英穂	増田政久		増田政久		
皮膚科	受付は10時まで	野平元備	鈴木淳宙	角田寿之	金親香子		
泌尿器科	佐藤直秀	櫻山由利		佐藤直秀	[交替医]		
	一色真造	一色真造	手術日	櫻山由利	手術日		
産婦人科	川名庸子	佐々木哲郎		川名庸子	受付は10時まで		
	大川玲子	[交替医]	岡嶋祐子	[交替医]	大川玲子		
眼科	黒田香織	手術日	黒田香織	手術日	岡嶋祐子		
	野田あすか	受付は10時まで ※新患のみ		受付は10時まで ※新患のみ	野田あすか		
頭頸部外科 (耳鼻咽喉科)	小林晋二	根岸久也	根岸久也	[交替医]	根岸久也		
	吹田淑子	窪田真理子	吹田淑子	手術日	窪田真理子		
放射線科	樋口知美	小林晋二	樋口知美	小林晋二	樋口知美		
	小林悠里	吹田淑子	小林悠里		小林悠里		
歯科口腔外科	沼田 勉	渋谷真理子		手術日	沼田 勉		
	渋谷真理子	清水恵也	手術日	手術日	清水恵也		
治療	蒔田勇治	守 由美子			蒔田勇治		
	原 竜介(予約制)		原 竜介(予約制)		原 竜介(予約制)		
腎内科(内科)	中津留 誠	中津留 誠	武井雅子	中津留 誠	中津留 誠		
	武井雅子	武井雅子	馬場隆緒	武井雅子	武井雅子		

特殊外来	腎内科(内科)				上田希彦 (第2・4水曜日) 8:30~
	肝臓外来(内科)		[交替医] 13:00~		
	不整脈外来(循環器内科)			上田希彦 (第2・4水曜日) 14:00~	
	乳児検診(小児科)			[交替医] (第2・4水曜日) 14:00~17:00	
	内分泌代謝(小児科)				安田敏行 14:00~17:00
	カウンセリング(小児科)			[交替医] (第3水曜日) 14:00~17:00	
	ヘルニア専門外来(外科)				山本海介 13:00~15:00
	緩和ケア外来(外科) 13:30~15:30	[交替医]	豊田康義	[交替医]	[交替医]
	ストーマ外来(外科)				[担当看護師] 外来診察時間内
	禁煙外来(外科)			菰田 弘 14:00~	
肛門外来(外科)	守 正浩(第1・3月曜日) 14:00~16:00 高見洋司(第2・4月曜日) 14:00~16:00				
性カウンセリング(産婦人科)			大川玲子 14:00~17:00		